

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成24年度継続評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
デジタル電波利用における電波雑音の状況に関する国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際標準化活動に関して、満足すべき成果を上げていると考えられる。</li> <li>・対象とする標準化は、電波雑音測定手法及び分析手法について、わが国の手法を標準化に結び付けるという重要なものであり、それに向けて戦略的な取り組みが全体計画として立案されている。</li> <li>・来年度が最終年度となっているが、引き続き我が国から寄与文書を入力し、人脈を途絶えないことが重要と考える。</li> </ul>	4.0
ミリ波・サブミリ波帯等における無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の提案に対して、英・米・加などが、賛同しているとの事で目的を達しつつあり、評価できる。</li> <li>・ミリ波・サブミリ波帯の利用を日本としてリードすることに注力して進めて欲しい。</li> <li>・電波利用料研究開発の成果ともリンクし、総合的な調整事務として優れた活動である。</li> </ul>	4.1
Cospas-SarsatへのPLBビーコン制御技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誤発射問題は、大きな課題と思えるので、日本においてなるべく早く第2ビーコンが実用に供せるように勧告化を急ぐ必要がある。</li> <li>・ビーコン制御技術の国際標準化活動の意義は理解でき、それなり成果を上げている。</li> <li>・対象が明確な試験事務で、目標達成に向けた活動が行われており、特に問題はない。</li> </ul>	4.1
一次レーダーの帯域外領域(OoB)内における不要発射制限マスクの国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H23-H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の技術の強い分野であり、外国の事情に配慮することも大事であるが、日本の強い技術が国際標準になるよう努力してほしい。</li> <li>・日本の技術が進んでいるシステムに関する標準化であり、海外の賛同を得る方策を主に検討する必要があるが、状況を見極めて進めていることが評価できる。</li> <li>・進め方や目標の達成度は妥当なものである。日本提案の最終実現に向けた戦略が必要である。</li> </ul>	4.3
移動体向け地上デジタルマルチメディア放送システムに関する国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の事情にも配慮しつつ日本方式が広く普及するよう努力してほしい。</li> <li>・日本方式が混信保護比の点でも優位性を発揮できるかどうかは、標準化戦略上重要であるので、早急にデータを把握した上で進める必要がある。それに向けて進めているので進め方は評価できる。</li> <li>・初年度でもあり、調査や情報収集のステップとしては、概ね目標を達成していると考えられる。</li> </ul>	3.9